

令和3年第4回（9月）瀬戸内市議会定例会

行政報告

本日は、令和3年第4回（9月）瀬戸内市議会定例会を招集しましたところ、ご多用の中ご出席をいただき、誠にありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症につきましては、全国でデルタ株の感染が拡大し、瀬戸内市でも日々複数の感染者が発生する等、感染の拡大が続いています。8月18日に岡山市、倉敷市が「まん延防止等重点措置」地域に指定されたことに伴い、同日に新型コロナウイルス感染症対策本部会議を開催し、人流を抑制することを目的として、9月12日まで市内66の公共施設を閉鎖することを決定しました。

また、8月27日から9月12日までを期間として、岡山県に3度目の緊急事態宣言が発令され、岡山県全域を対象として、酒類やカラオケ設備を提供する飲食店の休業等の措置が示されました。これを受け、再度防災行政無線や広報車で、市民の方に不要不急の外出・移動の自粛、バーベキューや地域で集まって行うカラオケ、会食の自粛、三密の回避等、感染予防の徹底を呼びかけました。

新型コロナワクチン接種につきましては、65歳以上の高齢者、基礎疾患を有する方及び高齢者施設職員等の優先接種対象者に続き、現在64歳以下の方を対象として接種を実施しているところです。これまでの接種者数は、8月23日現在2回の接種を済まされた方が1万7,825人（全体の接種率52.5%）で、そのうち65歳以上の高齢者は、1万1,311人（高齢者の接種率86.6%）となっています。

しかし、先日国からのワクチン供給が減少されることが明らかとなったた

め、10月以降の接種につきましては、今後のワクチンの供給状況を確認しながら、邑久医師会と接種体制について協議を進めているところです。今後もワクチンの有効性、安全性を市民の方に啓発していくとともに、安心して接種できる体制を整備していきます。

大雨による災害につきましては、8月12日から秋雨前線が日本に停滞し、九州や広島県等では観測史上最大の雨量を記録した結果、各地で河川の氾濫や土砂災害等が発生し、多くの方がその犠牲となりました。この災害により亡くなられた方にお悔やみを申し上げますとともに、被災された方々には心よりお見舞いを申し上げます。

瀬戸内市においては、一時大雨警報が発令されましたが、幸いにも大きな被害はありませんでした。12日からの大雨が予想された期間においては災害対策本部準備体制とし、岡山県、岡山地方気象台等から情報収集を行うとともに、避難所の開設準備をし、また、河川の増水に対応するため排水ポンプを稼働しました。

これからの台風シーズンに備え、関係機関との連絡体制を密にするとともに、避難所や災害対策本部等では、新型コロナウイルス感染症にも配慮した防災体制を整備し、市民の方には迅速かつ適切に情報を発信していきます。

それでは、主な取組についてご報告させていただきます。

○ DX推進の進捗状況について

DX戦略室では、国の自治体DX推進計画に示された重点項目について、システムの導入や改修が必要となるものへの対応と、その他のデジタル技術を活用した業務手続の改善など、市民生活がより便利に効率的になるための仕組みづくりという観点から課題に取り組んでいます。

7月に国から手順書が示された税関係等の住民情報システムの標準化・共

通化につきましては、今後、国の補助事業等を有効活用し、計画的に進めていきます。

また、令和4年度末までにオンライン化が求められている子育て、介護関係を中心とした特定の行政手続は、市民に利用しやすい仕組みとなるよう、検討を進めています。

市役所内の事務作業についても課題を抽出し、改善の検討を行っています。その中で、文書事務の効率化を図るため、電子決裁システム、文書管理システムを含む総合情報システムを導入することについて、今議会に関係予算を計上しています。

○ 第3次瀬戸内市総合計画について

現在の「第2次瀬戸内市総合計画後期基本計画」の計画期間終了に伴い、「第3次瀬戸内市総合計画」の案を策定しました。

この計画は、隔年で実施している市民まちづくり意識調査の結果を基に第2次瀬戸内市総合計画の進捗状況を分析し、市民や有識者で組織する総合計画審議会からいただいた意見を考慮し、新たにSDGs（持続可能な開発目標）の理念を踏まえた内容としています。

この計画に基づき、長期的な視点で持続可能なまちづくりを進めることで、「人と自然が織りなす しあわせ実感都市 瀬戸内」の実現を目指します。

○ 瀬戸内市応援寄附条例の一部改正について

ふるさと納税制度を活用した寄附につきましては、昨今のコロナ禍において外出を控える生活が続く中での「巣ごもり需要」の拡大により、今年度の本市の寄附額の実績は、6月末現在で1億1,000万円余で、前年同期比1.27倍で推移しています。

引き続きこのような傾向が続くと見込まれる中、環境問題への対応や、暮らしやすく持続可能な協働のまちづくりに向けた事業の財源確保を目的として、瀬戸内市応援寄附条例の一部を改正し、寄附の対象事業に「SDGsの推進に関する事業」と「市民活動団体の支援に関する事業」の2つの事業を追加します。

今後も多くの皆さまから応援していただけるよう、市の取組をより強力にアピールしていきたいと考えています。

○ 生理用品の無料配布機器の設置について

コロナ禍によって顕在化した「生理の貧困」問題に対応するため、現在災害備蓄品の一部を活用し、生理用品を市内の小中学校、公民館、ゆめトピア長船に設置していますが、これを継続的な取組とするため、市役所本庁舎、市民図書館、牛窓町公民館、ゆめトピア長船等公共施設の女性用トイレに、生理用品の無料配布機器の設置を進めています。

これは、オイテル株式会社と協定を締結し設置するもので、アプリをダウンロードしたスマートフォンを配布機器に近付けることによって、利用者に生理用品を無料で提供するものです。

この無料配布機器の設置を市内の公共施設に広げていくことで、「生理の貧困」問題だけでなく、ジェンダーギャップ解消につなげていきます。

○ 新火葬場整備について

第1期工事は、岡山ブルーラインからの進入路及び火葬場敷地造成工事に着手しています。進捗率は、7月末現在で約40%となっています。現在、工事車両の進入路を確保し、調整池や補強土壁などの工事を行っており、引き続き第2期工事に円滑に着手できるよう進めていきます。

また、建築工事につきましては、工期の短縮が図れ、進捗管理が明確で

ある設計施工一括発注方式（デザインビルド方式）を採用します。事業者の選定方法は公募型プロポーザル方式とし、令和3年10月下旬から令和4年4月下旬にかけて実施する予定です。

○ 地球温暖化防止対策について

ゼロカーボンシティ実現に係る施策を的確に推進するため、総務省の地域活性化起業人を活用し、民間企業から高度で専門的な知見・経験を持つ人材の受け入れを行います。

現在、生活環境課で進めている地球温暖化防止対策に関する業務を中心に従事してもらう予定で、ゼロカーボンシティ実現につながる効果的な施策や取組を提案・発案し、実行に移していく役割を担ってもらうこととしています。

○ 民間こども園の誘致について

邑久小学校区への幼保連携型民間こども園の誘致につきましては、設置・運営事業者選定委員会での選定を経て、事業予定者を社会福祉法人報恩会に決定しました。

今後、事業予定者と土地の貸付契約及び建物の譲渡契約を締結し、今年度中に事業者において実施設計の上、工事に着手し、令和5年4月の開園を予定しています。

○ 放課後児童クラブの指定管理者の指定について

市の6施設11クラブの放課後児童クラブの指定管理者について、今年度末で指定管理期間が終了することから、次期指定管理者を選定するため事業者の公募等を行い、選定委員会において審査をしました。その結果、5事業者が候補者として選定されました。

これらの候補者を指定管理者に指定するに当たり、今議会に関係議案を提出しています。

○ 上半期の火災救急概況について

今年1月から6月までの上半期の火災の発生件数は8件で、前年の同期より2件増加しています。また、前年は人的被害はありませんでしたが、今年には2人の死者が発生しています。

火災種別でみると、建物火災5件、林野火災1件、車両火災2件となっています。

増加傾向となっているため、市民の方への予防啓発に努めていきます。

次に、上半期の救急の搬送件数は876件で、前年の同期より81件増加しています。

事故種別では急病が559件で63.8%、年齢別では65歳以上の方が615人で70.2%、程度別では中等症が最も多く352人で41.9%となっています。

猛暑の影響により、熱中症の患者も増加していますので、予防啓発に努めていきます。

さて、今議会で提案申し上げます案件は、人事2件、条例2件、補正予算9件、その他15件、計28件です。

よろしくご審議をいただき、適切なお決定をいただきますようお願い申し上げます。市長部局の報告を終わらせていただきます。

令和3年9月1日

瀬戸内市長 武久 顕也